



日本学研究

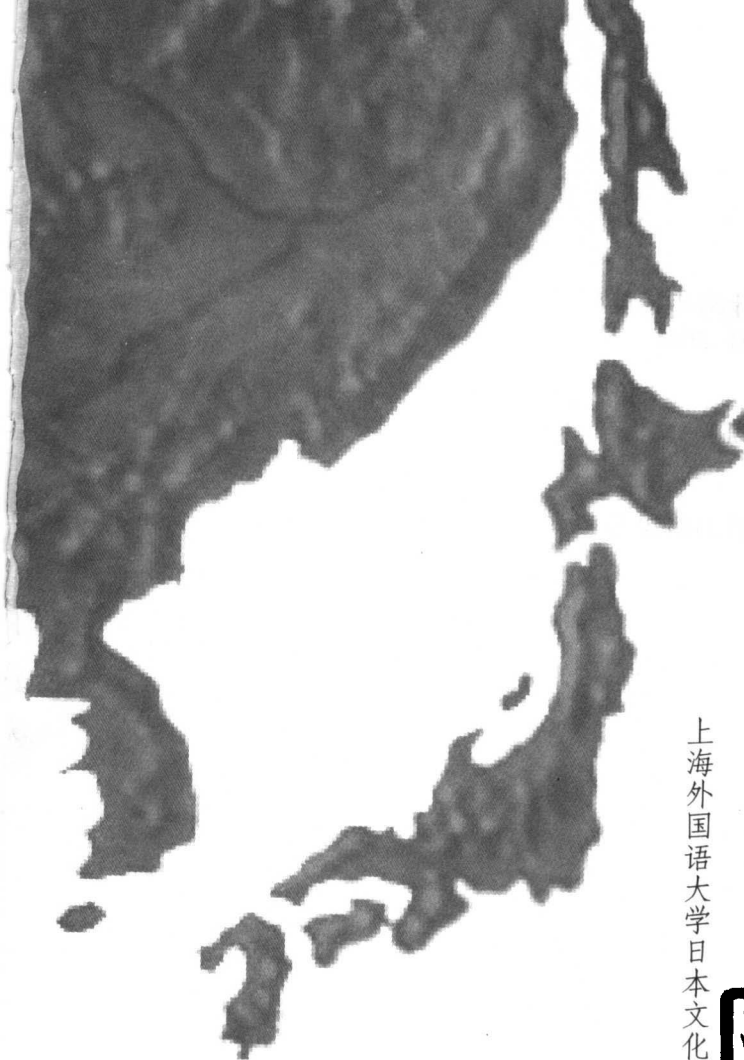
纪念中日邦交正常化三十周年

上海外国语大学日本文化经济学院日本文化研究中心 编

主编 吴大纲



上海外语教育出版社



日本学研究

纪念中日邦交

江苏工业学院图书馆
藏书章

二十周年

上海外国语大学日本文化经济学院日本文化研究中心 编

主编 吴大纲



上海外语教育出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本学研究: 纪念中日邦交正常化三十周年特集/
吴大纲主编. —上海: 上海外语教育出版社, 2004

ISBN 7-81095-053-3

I. 日... II. 吴... III. 日本学-研究-文集
IV. K313.07-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 112410 号

出版发行: 上海外语教育出版社

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 江龙娣

印 刷: 上海长阳印刷厂
经 销: 新华书店上海发行所
开 本: 787×1092 1/16 印张 15.25 字数 454千字
版 次: 2004 年 9 月第 1 版 2004 年 9 月第 1 次印刷
印 数: 2 500 册

书 号: ISBN 7-81095-053-3 / G · 034

定 价: 24.50 元

本版图书如有印装质量问题, 可向本社调换

編集にあたって

中日国交正常化 30 周年を記念して、上海の大学の日本語学科の教師たちが上海外国語大学日本文化経済学院に集まり、「2002 日本学学術研究会」を 2002 年 9 月の下旬に成功裏に開催した。研究会での発表論文をまとめてこの『日本学研究』の特集としてスタートさせた。

研究会は五つの分科会を設けて行われたが、編集の便宜上、そのままの形を保ちながら、多少微調整を施した。総じて言えば、発表論文のテーマが多領域にわたり、日本学の研究として恥ずかしくないような実力を見せており、上海の日本学学界のレベルを如実に反映していると言える。ここでは、その中のいくつかを拾い、かいつまんで解説してみたい。本当の意味での解説は編集者の力では及ばないものだが、数多くの優秀な論文に接して思わず読み入ってしまい、つい感慨を述べてみようと思うに至ったというのが正直の気持ちである。

日本長崎シーボルト大学の俞彭年の「中国人から見た日本人の言語表現心理」は、長年にわたる日本語教育現場の経験と上海市政府のお役人として日本人との長い付き合いからの体験を、言語表現心理という高い視点からまとめた力作である。一読して日本語らしい日本語とは何か、あるいは純正な日本語をマスターするにはこんな高い視点からの指導が必要不可欠だとあらためて感じさせられる。

華東師範大学の陸留弟の「異文化コミュニケーションへのアプローチ——中日の言葉と文化——」は、中日間のことばの相異から文化の相異へと展開して、その相異の特徴を「相同じ、相通じ、相異なり」ということばにまとめた。同文同種のように見えるこの二つの言語が元をただせば、根元から異なる言語だという認識が、中国の日本語研究者にとっても日本語学習者にとっても大切である。

上海工商外国語学院の杜勤の「九分は足らず、十分はこぼれる——日本語の表現心理に見る不完全主義——」は、日本語の表現心理を日本人の精神構造として掘り下げてその特徴を「不完全主義」と名づけた。「不完全主義」は日本人特有の精神構造ではないにしても、そこから中国文明摂取の痕跡を垣間見ることが出来よう。

上海外国語大学の呉大綱の「言語研究と言語学」は、文法研究を言語学の視点からの体系付けることを目差すものとして注目されよう。ことばの本質における自己中心性を引き出して、モーダルな意味を形態と文中での機能との三点セットで、文論(シンタクス)を考える。また伝統的な指示代名詞をその他の諸要素と一緒にアーカイブ(指示的な意味)として捉え、文章論(テキスト学)を考えるべきだというのが目新しい。

上海大学の邱根成の「漢語音訳語の成立条件」は長年にわたって取り込んできた課

題として、日本語における重要な位置を占めていた漢語音訳語の成り立ちを明らかにした。

上海外国語大学の許慈恵の「語の意味と構文」は、文法研究を語彙的な意味と結び付けて考える必要性を強く訴えようとしている。

復旦大学の龐志春の「通訳発話行為によるコミュニケーションの伝達性」は、上海通訳人材の相対的不足という現状を踏まえた上、適格な通訳なканずく同時通訳の養成の特殊性およびその必要な諸要素を網羅して述べ立てている。VO型言語とOV型言語との間の同時通訳は同じVO型言語間の同時通訳との違いを踏まえて、どれぐらいの時間差が許されるかというような問題もあって、その限界が感じられる。

上海外国語大学の周星の「中日同形語『動揺』について」は、日本語の中では自動詞と、中国語の中では自他動詞のような違いだけでなく、語彙的な意味にもかなりずれがある、と指摘している。

上海外国語大学の周平の「『万延元年のフットボール』の主題について」は、大江健三郎が1994年度のノーベル文学賞を受賞した時に、受賞の直接対象作品となった『万延元年のフットボール』を四つの受賞理由の中の二つ、即ち「時代的不幸から受けた襲撃的な思い」と「個人的不幸を掘り下げることによって人間に共通するものを描き出す」という視点から作品内容とその主題を述べたものである。

復旦大学の鄒波らの「同じ視点から見た異なる人生——『蜜柑』と『小さな出来事』をめぐって——」は、芥川の『蜜柑』と魯迅の『小さな出来事』を比較した上、異なった二人の作風の背後には社会的背景と個人的立場の差異があると指摘した。

上海外国語大学の陸静華の「日本の金融崩壊の間接的要因——官僚の天下り——」は、日本の「天下り」現象を分析した上、その悪影響をまとめてみた。中国の金融機関も日本の教訓を汲んで慎重に改革を進めてほしいと述べている。

上海財経大学丁劍平の「中日経済協力には『信用』がなにより」は、この数年来中日間に起きた数多くの事件を分析した上、その根底には相互不信感があり、両国の国益のためにも信頼関係を築き上げようと呼びかけている。

上海對外貿易学院の周林娟らの「中日貿易商談の戦略と戦術について」は、中日両方が貿易商談のスタイル比較を通じて、われわれがとるべき望ましい戦略と戦術を紹介している。

上海外国語大学副校長の譚晶華が多忙の中でわざわざ論文を寄せてき、国家建設と近代化を目指す中で、日本語教育の改革の必要性およびその展望を全面的に論じている。その中で上海外国語大学の目指す目標を「四型一輔」という養成パターンを披露してくれた。つまり、「外国語専攻型」「複合専攻型」「専攻方向型」「二ヶ国語型」と「補修型」と五つのパターンで多様化した社会需要に対応して外国語教育の改革を行うという大学側の既定方針を示してくれた。日本文化経済学院ではこの方針に従い、すでに「外国語専攻型」「複合専攻型」「二ヶ国語型」という三パターンのクラスを設けて、実行に移している。

上海における「日本学研究」のレベルアップを目指すのが、この『日本学研究』の願いであ

る。上海地域内なら在籍校問わず肩書き問わずというのがわれわれの方針であるので、これからもいい論文を寄せてくださるよう切に願っている。

吴大纲

毛文伟

2004. 5

目 次

編集にあたって	吴大纲 毛文伟 (I)
---------------	---------------

教 育 学

時代の需要に応じ、優れた素質の日本語人材を養成しよう

——大学の日本語教学を社会と結びつけることを併せて論ずる——	谭晶华 (3)
日本語教育法と日本語教師の素養	谈建浩 (9)
通訳発話行為によるコミュニケーションの伝達性	庞志春 (12)
日本語教育における女性用語の扱いをめぐる	赵 鸿 (16)
電子メール交換によるネット交流の試み	梁 暹 (20)
日本語輔修専攻の開設とその教育実践	孙玉洁 (23)
日本語教育における敬語教育をめぐる	黄爱民 (27)

言 語 学

言語研究と言語学	吴大纲 (33)
語の意味と構文	许慈惠 (37)
漢語音訳語の成立条件	邱根成 (40)
中日同形語「動揺」について	周 星 (43)
直後を表す「～たばかり」と「～たところ」	张建华 (46)
「～にしては」と「～わりには」の違いについて	李道荣 (49)
非情物を主格に拠える受身文は中国語の「被」、「由」、「受到」に訳されるか	王 磊 (52)
「によって」受身文の特徴に関する一考察	凌 蓉 (55)
「～カラニハ」と「～イジョウ」に関する一考察	毛文伟 (59)
「ものだ」の意味分析とその分布	关 薇 (63)
受身文における「によって」の機能について	刘志昱 (67)
形容詞形成接尾辞<ヤスイ>をめぐる	陈 雪 (71)
中日両国における漢字「的」についての比較	钱力奋 (75)
日本語オリジンの英語語彙試論 ——文化受容の視点から——	杨文瑜 邹 波 (78)
複合助詞「(は)」の意味・用法	徐秀姿 (82)
「～ておく」形式における準備性とその機能について	杨吉萍 (86)
場所格「で」の任意性をめぐる	郑 汀 (90)
「的」のつく派生語の体言修飾	陆 洁 (92)

文 学

- 『万延元年のフットボール』の主題について 周 平(99)
- 同じ視点から見た異なる人生
——『蜜柑』と『小さな出来事』をめぐって—— 邹 波 杨文瑜(104)
- 芥川龍之介の歴史小説に見られる創作の回帰
——『羅生門』と『お富の貞操』について—— 徐 旻(107)
- 禽獣と川端康成の眼
——『禽獣』の時間性再論—— 何文晔(111)
- 芥川龍之介の「首が落ちた話」 高 洁(115)
- 源氏物語の自然描写
——「景情一致」の表現を中心に—— 胡秀敏(119)
- 源氏物語におけるあの世の匂い
——薫君と大君との交際をめぐって—— 黄建香(122)
- 『源氏物語』の夕顔巻における「凶宅詩」の引用様相 孟 彤(125)
- 『周作人日記』研究ノート
——最初の日記の挫折—— 李勇华(129)
- 夏目漱石の狂気 李月平(133)
- 幸徳秋水のナショナリズムをめぐって
——朝鮮問題を中心に—— 张 杰(137)
- 『男女恋愛小説』から渡辺淳一の女性観を見る 边西岩(140)
- 戦争、宗教と人間性
——『海と毒薬』の主題を考える—— 高丽霞(144)
- 『桃太郎』考——鬼退治を巡って 周保雄(148)
- 『曽根崎心中』と『曽根崎殉情』をめぐって 徐彭阳(151)
- たった独りの梅見
——観梅の歌と憶良の美意識について—— 朱巨器(154)

文 化

- 中国人から見た日本人の言語表現心理 俞彭年(159)
- 異文化コミュニケーションへのアプローチ
——中日の言葉と文化—— 陆留弟(165)
- 九分は足らず、十分はこぼれる
——日本語の表現心理に見る不完全主義—— 杜 勤(168)
- 願望・依頼表現上の注意事項について 吕寅秋(172)
- 三十年代における周作人の日本文化論に対する再考察 丁 蕾(175)
- 日本語の「女性ことば」と「女性の社会関与」についての一考察 王 颀(179)
- 独特の造園技法——借景についての一考察 虞崖暖(183)

経 済

日本の金融崩壊の間接的要因

——官僚の天下り——	陆静华(189)
中日経済協力には「信用」がなにより	丁剑平(193)
日本における少子化問題について	
——統計データを利用して——	张建华(196)
金融改革と経済発展	孙立坚 李可斐(199)
中日貿易商談の戦略と戦術について	周林娟 秦 娟(206)
米国通商政策とWTO	王海镇(209)
円の国際化	陈小芬(213)
日本的経営についての再認識	徐宝妹(217)
日本財政投融资の運用とその役割	王 琳(221)
日本における不良債権について	曹 莉(225)
日本の出版業界における委託返品制について	韩 宇(228)
不良債権発生メカニズムの中日比較	李可斐(231)

J I A O Y U X U E

教育学

時代の需要に応じ、優れた素質の 日本語人材を養成しよう

——大学の日本語教学を社会と結びつけることを併せて論ずる——

譚晶华

この二年来、教育部大学外国語専攻教学指導委員会の指導のもとに、新世紀の外国語人材の教育と養成について研究がいろいろ深く進められている。外国語(日本語を含む)の教育は如何に時代の需要に応じ、如何にして社会の発展と結びついて、国家の建設に必要な優れた素質の人材を育成するかを、多くの外国語教育に携わっている学者・専門家たちが真面目に考えている問題である。

一、新時代の外国語人材への需要

21世紀は国際化の先端科学技術の時代であり、また工業社会が情報社会に転換する時代でもある。科学技術の高速の発展、新興交錯学科の現れ、人文文化と科学技術間の相互浸透と融合、社会の情報化及び知識、情報の普及、技術の日進月歩は世界各国の文化の交流・衝突と合作を更に盛んにさせている。世界の激しい競争で不敗の地に立つには、人材養成の高地を占領し、世界一流のハイレベルの人材を育て上げなければならない。

中国大陸の外国語教育界は、国家建設に差し迫って必要な外国語人材への養成に力を入れ、その能力と素質を高めるのが目の前の肝心な任務であると十分に意識した。今までの長い間、外国語教育は計画経済の体制を実行し、国家の計画募集、養成、配属というパターンを踏襲してきたが、現在、市場の長期的な需要を導きに、市場の経済建設に積極的に奉仕するように改めるべきである。社会の外国語人材への需要が多角的な趨勢を見せているから、今までの単一の外国語専攻の基礎技能性

の人材はすでに厳しい挑戦を受けた。今後私たちにはシェークスピアや源氏物語等の専門研究家をやはり必要とするが、毎年募集する多くの外国語専攻の本科生を全部その方向へ養成するとすればおかしくなる。大学外国語専攻は昔の「スコラ的」人材養成のパターンから広い口径、応用性、複合型の人材養成のパターンに転換すべきである。

経済建設を中心にすることは我国の国策になった国際交流と改革開放の加速に連れて、外国語教育の元の言語文学の基礎知識の上に、外交、外事、経済貿易、金融、管理、情報などの知識を入れ、計算機やインターネットの技術が外国語の学習に素晴らしい条件を提供することにより、外国語教育の内容を豊かにし、新しい教育の手段も増やした。それは基礎がしっかりして、知識面が広く、一定の専門知識を持ち、能力が強く、素質が優れた社会に迎えられる外国語人材を養成するに有利である。

本学の日本語専攻は上海市日本語人材の需要現状及び見通しについて、かつて上海を中心にアンケートで科学研究所、機関、貿易商社、企業事業団体、三資(合弁・合作・外資、下同)企業などを200社調査したことがある。結局、現在上海市の日本語人材は社会と経済発展が満たせず、基本満足と思う団体が30%、不足と思う団体が54%、嚴重不足と思う団体が16%だということがわかった。国内の対外貿易、文化教育、科学研究及び近年来大いに発展している不動産、証券、保険、法律、経済開発区等の業界はいずれも日本語人材を充実させる必要がある。一部の大、中型企業と科学研究所の日本

語の人材の欠乏はその発展に困難をもたらし、臨時に高価で借りざるを得ない羽目になった。本学の日本語専攻の卒業生の就職状況は外国語専攻の中でいつももっともよく、需要に応じ切れない様子を見せている。

調査でまた日本語人材の学歴があまり合理でないことに気付いた。現在本科の学歴以上(修士、博士を含む)の人は45%、大学専科、成人教育、独学試験と外国での勉強により専科の学歴を持つ人は36%それぞれ占め、あとの19%は独学、会社養成、外国での言語学習を通して日本語を覚えたのである、大学以上の学歴を持つ人は半分たらずである(張栄根:「上海市日本語人材の需要現状と見通しについての調査報告」)。

それと同時に、卒業生の就職選択も多元化の様子を呈し、卒業生も採用企業も自分の需要により選択できるようになった卒業生を採用する団体は、養成された日本語の人材の数量を増やす一方、専門教育の系統性を強め、専門教育の構造を改善し、教育の知識面を広め、経済貿易、金融、管理、法律、情報などの現代化建設に差し迫って必要な専門知識の教育を強化し、同時に大学生の事業心、責任感、苦しみを耐え忍ぶ精神を育て上げることを大学に切に希望している。これはまさに大学日本語教育を社会に結びつける請求であると思われる。

二、本学の複合型外国語人材養成の実践

上海外国語大学は八十年代の初めごろから、国際交流より姉妹校の東京外大、法政大学、愛知大学等の日本国立、私立大学を含んだ世界各国の大学を考察したことがあり、そして教育部の批准により、本学の1986～1990年の発展計画に「外国言語・文学を主とする単科性学院を次第に国際的総合応用文科大学に発展させる」という戦略を明らかにした。改革が発展の原動力であり、教育の改革を行なわれない大学に生命力と活気がないと認定している。この20年来、本学は教育の改革を大学の各改革の核心にし、教学を主旋律にし、専攻の配置、学科の調整と改造に難しい試しを続けてきた。現在本学の25の専攻は五つの一級学科(文学、経済学、法学、管理学、教育学)と七つの二級学科(経済学、法学、教育学、中国言語文学、外国言語文

学、ジャーナリズム学、工商管理学)にそれぞれ属し、15の修士コースと7の博士コースがある。総合的応用文学大学への転換を基本的に実現し、多種類学科が歩調を併せて外国語の人材を育成する体系を形成した。こうした転換は全国と区域性社会、経済、科学技術と文化の発展の需要に割合よく順応し、大学の外国語教育を社会と結びつけることを実現し、本学自身の改革と発展の需要をも満たしている。

本学の外国語人材の養成は二十年近くの教学の改革により、すでに「四型一輔」という養成のパターンを形成した。

1. 外国語専攻型。即ち外国語言語文化専攻。このパターンは長い歴史を持ち、本学の優勢でもあり、しっかりした基礎と豊かな教学の経験を持っている。現在英語、日本語、ロシア語、ドイツ語、フランス語、アラビア語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、ギリシア語、韓国語、タイ国語、ペルシヤ語の13専攻がある。

2. 複合専攻型。このパターンは専攻の基礎知識、学科の理論と基本技能もあれば、また、しっかりした外国語の基礎を身に付け、外国語の言語能力もある新しい複合型の外国語人材を養成する。現在、国際経済貿易(英語、日本語)、会計、金融、企業管理、経済法、ジャーナリズム、教育技術とマスコミ、テレビ新聞学、対外漢語、広告学、情報技術管理、国際政治学の12専攻が設けられている。

3. 専攻方向型。このパターンは元の専攻に若干の方向性課程を入れて、6～8の関係課程を系統的に勉強することにより、複合型専攻の方向を表わしている。現在英語—国際商務、国際関係、観光・ホテル、上級翻訳;対外漢語—国際文書秘書;ロシア語—経済貿易;アラビア語—中東貿易等が設けられている。

4. 二か国外国語型。このパターンは専攻する外国語プラス副次的に修める外国語であり、専攻する外国語は本科の水準に達し、副次的に修める外国語は専科卒業の水準に達するように要求されている。現在、ドイツ語、フランス語、ロシア語、アラビア語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、ギリシア語、韓国語、タイ国語、ペルシヤ語プラス英語、またアラビア語プラスペルシヤ語がある。

5. 「補修制」型。このパターンは専攻成績の優

秀な学生に補助専攻を開設し、補助専攻の課程に合格した人に専攻の補充として、大学に発行された「輔修証書」を交付する。言語文化類の学生はこのパターンを通してほかの専攻の知識が勉強できる。現在、国際貿易、企業管理、外事管理、観光・ホテル管理、保険、金融、広告学の7「輔修」専攻が設けられている。

上記のいくつかのパターンは本学の外国語教学において併存している。改革開放・国家経済建設及び新世紀の社会発展の需要に応じさせ、大学の外国語教育を社会と結びつけるよう、国際的応用性の複合型の高級外国語人材の養成に協力して力を入れている。

専攻設置に対する改革、応用性総合文科大学への転換は決してたやすい過程ではない。多くの技術的問題のほかに、認識・観念上の問題もある。教育の規律に従って操作せず、大学自身の条件、学科の特徴と優勢を構わず、長期的な計画を立てず、人材市場の予測をしないならば、自分の特色だけでなく、教学の良い質さえもない。例えば本学の日本語経済貿易専攻は設ける前に、前後にして十数校の国内大学の同じ専攻を調べ、本学の学科の優勢と結びつけ、それから専攻の基礎教育の目標、専攻の技能養成の目標、教学の重点と方法を制定した。また、本学の二カ国語の教学は十数年の実践の中で、「二カ国語」教学に適切な計画カリキュラムや専攻言語と「補修」言語の時間割表を次第に編成し、教学の質に対する評価や監督手段及び措置を模索し出した。そして選択科目、人文学科課程を増やすにも一連の措置をとった。周辺の復旦大学、同済大学、財経大学、对外貿易学院等の十数校の大学と協力して、各大学は銘々の優勢課程、専攻を出し、その他の大学の学生に選択させる。大学の名誉に気を配るから、出された教師と課程はいずれも一流なものである。この協力のプロジェクトは本学の任意選択科目を60ほど上らせ、「輔修」専攻も20まで拡大した。各大学ばかりでなく、各大学の学生はもっとも大きな受益者となった。

専攻設置の改革における重点と難点は、専攻の建設、課程の体系、課程の建設と教師陣の建設などを含んでいる。今までの基本的なやり方は学科建設を基本にし、課程建設を核心にし、社会の需要へ

の順応を導きにすることである。この十数年来、本学はそのために大分力と金銭を入れている。課程建設と教材建設に投入し、人材の引受に扶助の政策を実行し、更に新世紀の課程体系や教学内容の改革を経済的に援助する。その重点は「内包の発展を重んじ、専攻の口径を広め、素質教育を推進する」というところに置いている。各専攻の課程設置、教学内容、教育手段の調整はなるべくもの計画より「起点が高く、内容が新しく、方法が弾力性を持ち、特色がある」。1993年以来、二年に一回で各専攻の使用中の教学計画を幅の異なった調整をすることは大学の教学に活力と生氣をもたらしている。

外国語教育には時代の発展に順応し、社会とうまく結びつける問題があり、経済の継続的発展と同じように、大学の外国語教育にも継続的発展の問題がある。今までの努力を振り返れば、改革による成果に深い体得がある。二十年前から改革せず、そのままとの「陣地を固守する」なら、本学は行き詰まっているかも知れないと思う。

三、優れた日本語人材の養成への若干思考

1. 日本語人材の知性養成に力を入れ、その総合的素質を確保する。

中国はすでにWTOの加入をした。時代の需要に応じ、優れた日本語人材をより多く養成するために大学の日本語教学を改革することによって社会と結びつけることを検討するとき、まず素質教育を基点に人材の養成が如何に市場の需要に適応するかを重点的に考えるか、それとも市場を基点にどのような知識と技能を持つ人材を養成するかをはっきりさせなければならない。認識が違えば、実践の結果も自ずと違っている。日本語教育は学生の優れた素質の養成をトップにし、一方的な市場決定論を捨てるべきである。市場決定論は往々にして局部、目の前の功利に駆られて、教育の体制に実用主義の影響、短期の利益のためバランスを失なわせ、教育の国家・民族の全体利益に対する負うべき責任を怠り、放棄させるのである。大学教育と社会との結合を強めることを呼びかけているときに、まず社会人としての大学生自身の全面的且つ健康的な発展を確保すべきである。

一方的な市場需要論が学生道德の養成にも不利

である。国家の開放度の強くなるに連れて、外来の意識と価値観が言語の優勢を持つ外国語専攻の学生を最も直接に影響している。すでに実施されたアンケート調査で次のことが分かった。一部の日本語人材ははっきりした民族文化の認定感と明確な民族利益の保護意識が欠け、ただ個人の功利でしょっちゅう仕事を変えたり、待遇でけちけちしたりして、現在の職場に落ち着かない。そして長い間、我国の外国語教育が人材の知性養成へ重視不足なので、その他の人文文科系専攻と比べたら、外国語専攻(日本語専攻を含む)の卒業生は思惟のロジック性と条理性が「やや落ち」、知識面が狭く、研究能力がよくなり、巨視的思惟と問題分析能力が欠けていると多くの調査を受けた対象は思っている。この指摘は重視すべきで、日本語教学を社会と結びつけることを強調するとき、外国語専攻の人文性を無視しないようにする。日本語学習の結果は言語交際の能力を高めるばかりではなく、思惟方式の開拓、観念価値観と人格の再形成でもある。良い日本語教学が受教育者の素質の向上に有利であることは言うまでもない。

2. 社会の人材需要を明らかにし、日本語専攻の学科地位を確保する。

日本語専攻の素質教育を基点にして社会と結びつき、社会の需要に順応することを提唱するとき、日本語専攻の学科の地位を確保すべきである。日本語専攻が自身の特徴を保持するのは学科成立の根本である。優れた日本語人材を養成する過程において、人文知識の教学を強めるだけでなく、日本語技能の教学をよりよく行うことを着実にしなければならない。

中国語専攻が漢語及び中国文化を研究すると同じように、日本語専攻の主な任務の一つは日本語文化及び文化対象の人文性研究である。日本語専攻はやはり人文性を根本に、独立した基礎学科で、外国言語文学学科に入れても適当である。外国語と関係文化を突っ込んで研究することはいかなる時代に重要な深層需要として、人類社会と文化相続・発展を促す非直接功利の意義もあれば、国家・団体・個人の国際交流における直接な実用意義もある。日本語専攻の優れた人材は中日文化の融合と多国文化意識、能力の面に目立った優勢を持ち、もっと直に、迅速に、頻繁に日本文化に触

れ、中日文化の異同、衝突、融合がもっと素早く、深く体得でき、文化の融合に積極的な役割が果たせるのである。

そしてまた、日本語技能を表わす道具性が人文性に根を植えるが、人文性から相対的に独立している。日本語の技能の応用は中日両国の各種の現実交際に適用する。法律、金融、計算機、管理、経済貿易等の専攻で学んだ知識は専門的で、日本語専攻に提供された知識は通用の道具である。言語が思惟の重要なキャリアなので、言語の交流がその表現の内容とは関係ないいわゆる純粋と単一を表わすことができない。日本語の達者な人は普通知識面が広く、理解力も強く、社会の各業界の需要に速く適応できる。しかし、社会の需要にあまり適応できない人は日本語の玄人の目には元もと日本語をうまくマスターしていないから、その他の業務水準もなかなか上がらないであろう。問題の二つ側面として、複合型人材の養成における専攻のつながりを考えるときに外国語技能の問題そのものも解決すべきである。全体から言えば、我国の日本語専攻の大学生の日本語技能はまだ皆の気に入る水準に達していないようである。

優れた日本語人材は次のような日本語の道具技能を持つべきである。A. 有効な日本語の語音、語彙、文法、構文の基本的表現手段。B. 日本語の口語と文章語、普通語と敬語の情報交際の有効性および人間交流の妥当性。C. 日本語の総合的感知と文章修飾の能力、感度。D. 完全な日本語と中国語の口頭、書面の総合的情報の立体構造及び相互処理の能力。E. 豊かな日本文学、言語、文化の知識。これらの技能は日本語専攻の人材であるか否かを区別する分かれ目である。日本語教学を社会とよく結び付け、社会の経済発展の需要を満たす角度から見れば、日本語専攻の学生の技能水準の向上は確かに大学日本語教学の当面の急務である。日本語専攻は日本語専攻だから、いかなる学科と複合をしてもその基調は変えられないものであろう。

3. 力を入れて日本語の複合型と応用型人材を養成しよう。

大学の日本語教学を社会と結びつけることを検討する場合、複合型の人材の養成を強調すると同時に、一定の数と比例で規格の異なった通用型の日

本語人材を育て上げることを疎かにしてはならない。複合型の人材とは優れた日本語知識と技能を持ち、同時に関係の専門実務の知識と能力を持つ又は応用分野の理論素養及び日本語の言語、文学、文化の学術研究分野の関係理論素養を同時に持つ日本語専攻の人材を指している。応用型の人材とは優れた日本語知識と技能を持ち、博識で言語交際の適応性と融通性を持つが、特定の業務知識と能力特長を持たない日本語の人材を指している。

日本語の複合型の人材を養成することは大学本科教育の重点になる。養成の基本知識と技能の構造は、日本語専攻の知識、技能の水準が本科教育規定の要求に達し、その上にある非外国語の学科がある程度系統的に把握することである。つまり関係専攻の勉強により、その学科の基本知識の構造系統にある細かい技術でもばらばら大まかな知識でもなく、もっとも肝心な内容を身につけるべきである。それらの関係の専攻の含んでいる範囲はかなり広く、人文性の強い学科と分野もあるし、応用性の強い学科と分野、例えば経済、貿易などもある。

研究類複合型の修士、博士院生の養成も議事日程に乗せている。それは日本語言語学、文学、翻訳理論、日本研究、国際政治、国際ジャーナリズム、中日文化交流、多国文化交際、文化人類学等の人文性学科の日本語専攻の高級学位人材を指し、関わる専攻方向の一部は日本語専攻の伝統的研究方向と重なっているが、拡張と伸びもある。この種の理論研究人材も複合型の人材で、実質上やはり日本語を道具にする。学科と分野の研究は日本語の精通を前提にし、専攻の方向を突っ込んで研究し、理論、知識の研究や思想方法を重んじることを任務として、同時通訳のように日本語技能の非凡発揮とは異なっている。

無論、日本語専攻も一定の比例で非「知識型」「研究型」の通用性人材を養成していい。この種の人材に対する社会の需要はやはり大きい。彼らの日本語専攻の知識とレベルはいずれも優れ、各分野の知識にあるべき涉猟を必要とする。例えば、高級専門通訳・翻訳者、高級言語情報処理・顧問・諮問業務の専門人員などである。

複合型人材の教学パターンは二つの部分からなっている。その一部は日本語専攻の課程であり、

もう一部は関係専攻の課程である。後者の専攻課程は細かい技術ではなく、ある程度の系統化を必要とする。関係専攻の基本系統は学生にその専攻の基本規律をよく把握させ、その専攻範囲内の他の知識を理解し、拡張することによりしっかりした基礎を打ち固め、さらに将来の仕事に順応するために一を聞いて十を知る具合にその他に関わる業務分野の表現手段を取らせることができる。

4. 日本語教師の理論と実践の水準を絶えず高め、教師陣の質を保证する。

社会とよく結ぶ優れた日本語人材を養成し、人間の素質養成を基点にして社会の需要に奉仕することを提唱するには、教育を実施する日本語科の教師自身の質を高めなければならない。優れた教師陣は日本語専攻教育体制と教学パターンの完備・成熟を保証する前提となっている。二十数年の教育改革を通して、本学はすでに実務に励み、一定の水準のある教師陣を持っているが、社会に送り出して日本語専攻の卒業生の知識構造と個人素質にあれこれ不足があると言えば、その原因の一つは教師陣の質を更に向上させる必要があると思われる。

まず、この数年来、新設の日本語専攻の本科が多くなり、日本語の教師陣にどんどん入る若手教師の日本語水準はまだ高くなく、昔日本語の教師は日本語だけ話せ、専攻がないといった議論はほぼ事実に近いから。専門知識が欠け、日本語の腕もしっかりしていない教師は、一部の大学の教師陣の深刻な問題になる。若手教師は当学院を卒業した当時まあまあ良かったが、長い間、目の前の功利を求めるに急であり、そわそわして落ち着かず、自分のレベルの向上を怠っているから、ついに遅れたケースもある。

次に、全体から言えば、我国の日本語専攻の教師陣の研究水準はやや低いという感じがある。多くの教師は実践能力が割合強いが、伝統的な言語学、文学、文化などの日本語に関わる専攻分野の理論が欠け、厳格な研究方法も身に付いていないらしい。一部の教師の論文はあるいは自分の経験談のように書き、あるいは日本学者の学説を拠所にして、減多に自己見解を見せない。筆者は本学の科学研究処長を勤めたとき、英語、日本語などの人気専攻の教師にそのような傾向が目立ったのに気づ

いた。複合型人材の養成方法、日本語教学法の改進黨を検討する場合、研究の能力がなければ、ただ思うままに大ざっぱに議論しては駄目である。日本語の教学において研究の精神を貫く必要がある。研究しないと、発展するどころか、教学はそのまま足踏み、後退のおそれさえある。

日本語専攻の教師の外国語水準と研究能力の向上は時間と根気を必要とし、そして教学と研究の経費の保証、教師待遇の改善、授業時間数の圧力の軽減などに関わっている。しかし、近年来、国家政策と国内の各大学の政策上の激励は明らかに強くなり、今までの改革の外側の障害がだんだん取り除かれている。現在大事なものは、日本語教師は外国語の水準の向上に励み、しっかりと問題研究に没頭することである。そうしてこそ、日本語教学ははじめて健康的に発展しよりよく社会と結びつけることができる。

終わりに

本文の第一部分は現時代と社会の外国語人材への需要を述べ、第二部分は上海外国語大学の複合人材の養成のための教学改革を報告し、第三部分は大学教学を社会と結びつけ、社会に優れた日本語

人材を養成するについて、若干の思考をした。主に日本語人材の知性養成、日本語学科の地位の確保、日本語専攻の複合人材の養成と教師レベルの向上である。これらの思考の発想は次の通りである。(1) 今までの学生が専攻の需要に適應することから社会の需要に適應することになる。(2) 今までの単一の人材養成のパターンで全ての学生を育成することから多種類のパターンで育成することになり、学生に可能の範囲内で最大限に發展させる。(3) 今までの主に知識の量による質の評価から知識の量だけでなく、学生の能力と素質をもっと重んじ、それに従って教学の質を評価することになる。(4) 今までのただ日本語専攻の知識を重視することからしっかりした日本語専攻の知識だけでなく、幅広い基礎知識と豊かな人文知識を重視することになる。(5) 今までの教育体制の密封構造から教学において、研究の内容を入れ、学生に問題研究の方法と問題解決の能力を教えることになる。大学の教育改革を突っ込んで弛まなく進めれば、大学の日本語教学を社会と結びつける問題をうまく解決し、我国の社会、経済、文化の發展に優れた日本語人材がより多く養成できると固く信じている。

参考文献

1. 教育部大学外语专业教学指导委员会 【外国語専攻本科教学改革についての若干意見】 1998.6
2. 皮细庚主编 【日本学研究論文集】 上海外语教育出版社 2000.6
3. 皮细庚主编 【大学日本語専攻教学国際シンポジウム論文集】 上海外语教育出版社 2000.7
4. 「WTO 加入と外国語専攻教育」课题组 【大学外国語専攻の教育体制と教学パターンの改革に関する幾つかの思考】 《外语界》 2001NO5~6. 2002NO1
5. 上海外国语大学教务处编 《教学一览》校内发行

(上海外国语大学)

(上接 42 页)

- ④ 金田一春彦 【日本語・新版(下)】 岩波新書 1991
- ⑤ 【岩波講座日本語(3)】 岩波書店 1977
- ⑥ 金田一春彦 【日本語・新版(下)】 岩波新書 1991
- ⑦ 金田一春彦・林大・柴田武 【日本語百科大事典】 大修館書店 1988

(上海对外贸易学院商务外语学院)